



行事予定表		
1	水	交通安全教室
2	木	絵本の読み聞かせ (5歳児)
3	金	文化の日
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	3園合同交流会 (5歳児) ピヨピヨひろば
8	水	リトミック
9	木	内科検診 (15:00)
10	金	牛久三中生の地域貢献活動
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	おべんとうデー
16	木	カレーの日
17	金	牛久二小街探検 (2年生)
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	避難訓練
22	水	
23	木	勤労感謝の日
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	不審者対応訓練
29	水	
30	木	誕生会



地球沸騰化の夏がなかなか終わらず
十月中旬まで猛暑が続くと予報が
秋を通り越して、一気に冬の寒さに。
それでも、日暮れが早くなり秋の気配が。
秋の青空の下、
「コナの前と同じいつもの運動会。
家族そろって、大声援の中
子ども達は、
大きく成長した姿を見せてくれた。
楽しかったー!」子ども達の姿に涙がと
喜びと感動の音が。
自然も美しく変化。
爽やかな風と、揺れる「フスマ
土と草と木々のおい。
バタが跳ね、秋あかねが舞う、
子ども達は虫捕りに夢中、
まさに子ども達の季節。

「睡眠時間足りていますか?」
・日本人は睡眠時間が足りない人種だと言われ
ています。ある研究者が8〜9時に寝ている子
と10時以降に寝ている子では、起床時間や朝食、
朝排便のあるないが分かれ、日中の情緒の安定
や活動量に差が出ると言われています。
もし、お子さんが大人の生活リズムに合わせ
ているようであれば、まず1週間。お子さんの
健やかな成長の為に、早く起こし、早寝が出
来るように大人が行動することが大切だと思
います。(早寝・早起き・朝ごはん・朝排泄)
今月の予定の中から・・・
●交通安全教室 (1日)
・4・5歳児で教職員と共に交通ルールを守り
ながら、第4公園まで遊びに行きます。
●3園合同交流会 (7日)
・つつじが丘保育園、ふたばランド保育園の年
長児と共につつじが丘保育園の園庭をお借り
して交流を深めます。
●リトミック (8日)
・日々の積み重ねが大事なリトミック。音楽に
合わせ、身体がリズムを刻んでいます。
●内科検診 (9日) 15時
・当日欠席の場合も、受診時間に来園して頂き、
全員の方の受診をお願いしています。

お子さんの体調を把握するためにもどうぞよ
ろしく願います。
●牛久三中生の地域貢献活動 (10日)
・牛久三中の1年〜3年の生徒が10名位本園5
歳児と昔遊びをしたり、演奏を聴いたりする予
定です。(中学生が考えた活動との事です。)
●牛久二小街探検 (17日)
・牛久二小の2年生数名が本園を訪問し、保育
園の仕事や園内の事について質問を受けます。
●不審者対応訓練 (28日)
・不審者が現れた際に備え、子ども達を恐ら
せすぎずに訓練を行います。
●誕生会 (30日)
・誕生会の初めに「生まれてきてくれてありが
とう」と言う5歳児の子ども達。お祝の拍手に
も心がこもって嬉しく思います。
★お知らせ
・例年、11月からフードの無い薄手のジャンパ
ーの用意をお願いしていますが、まだ暖かいの
で必要となった際にお知らせします。
・主任の落合真希先生が結婚し、三浦真希先生
となりました。
・ひかりぐみの満彩加先生が産休に入りました。
・今月末で非常勤の島津未奈子先生が一身上の
都合で退職となりました。

センス・オブ・ワンダー



レイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワ
ンダー」美しいもの、未知なるもの、神秘的な
ものに目を凝らす感性を子供達へ、一番大切な贈
り物にしたい。・・・を再読した。忘れかけて
いた子ども達の世界が蘇ってきた。子ども達の
世界で、失いかけていたものではないか。その
「感性を育むためには、子どもと一緒に自然を
探索し、発見の喜びに胸をときめかせる大人が
一人でも傍に居ること」だと。▼運動会が終わ
った雨の翌日、真っ青な秋空の中、全園児でお
散歩に出かけた。裏門を出ると、すぐにキンモ
クセイの香りがした。子ども達もいい匂いと、
周囲を見回すと、大きく育ったキンモクセイが、
黄色い花をいっぱいつけて、あたりに芳香を放
っていた。しばらく行くと、ススキ野原に出た。
ススキを帽子につけると、僕にも取ってとせが
まれた。しばらく行くとため池があり、子供た
ちが覗くと、大きなザリガニが、泥を巻き上げ
て逃げた。途中、色々な草花を見つけた。小さ
な美しい花に見とれたり、トノサマバッタを追
いかけたり、カマキリやカタツムリを捕まえた
り、動植物に触れながら、公園に着いた。グラ
ウンドは、ソフトボールをしていたので入れな
かった。石の壁をよじ登ったり、木登りをする
子、刈り込まれた草地で鬼ごっこやじゃれつき
遊びをしたりして、たつぷり遊んだ。疲れたの
で、グラウンド入口の階段に座って、遠くのソ
フトボールをしている人達を眺めていると、公
園の手入れをしていたオバさんからもらった
コスモスを花束にして女の子達が集まって来
た。「何をしているの?」と「おじいちゃん達
のソフトボールを見ているんだ」と言うと、「ど
うしておじいちゃんって分かるの?」と。「う
ん、園長ゴリラは何でもわかるんだ」と答えた。
(動きがおじいちゃんだった)。白い雲がひとつ、
青空にぼっかり浮かんでいた。子ども達も、白
い雲を見ながら「雲に乗ってみたいな」「雲つ
てどうなっているんだろう」などと想像を膨ら
ませていた。そして、「お腹が空いたから、そ
ろそろ幼稚園に帰ろう」と帰路に着いた。子ど
も達には、こういう生活が大切だと思った。▼
その日の夕刻、事務所で机に向かってしていると、
遠くからたくさん虫の音が。虫の音に誘われ
外にでると、風がひんやりと頬をなでた。秋の
深まりの中、虫の音に耳を傾けた。タイパの忙
しい時代、童謡「むしのこえ」に登場する虫た
ちの声を、じっと聴き分ける。
鈴虫の音をくらべむと目をつむる。

